

社会資本総合整備計画 防災・安全交付金

平成30年03月23日

計画の名称	水源の里の清流を未来へ引き継ぐ水環境づくり（防災・安全）													
計画の期間	平成28年度～平成31年度（4年間）								重点配分対象の該当					
交付対象	真庭市													
計画の目標	計画的な浸水対策および老朽化対策を行い、良好な水環境を未来へつなく。													
全体事業費（百万円）	合計（A+B+C+D）		213	A	213	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C+D)	0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		H28当初	H29末	H31末
1	下水道による都市浸水対策達成率を0%(H28)から100%(H31)へ増加させる。 下水道による都市浸水対策達成率 浸水対策完了済み面積(ha) / 浸水対策を実施すべき面積(ha)	0%	100%	100%
2	ストックマネジメント計画策定に係る管渠施設の点検実施率を0%(H30)から14%(H31)へ増加させる。 ストックマネジメント計画策定に係る管渠施設の点検調査実施率 点検調査実施済みとなる管渠延長(km) / 幹線管渠延長(km)	0%	0%	14%
3	ストックマネジメント計画策定に係る処理場、ポンプ場の点検実施率を0%(H30)から29%(H31)へ増加させる。 ストックマネジメント計画策定に係る処理場、ポンプ場施設の点検調査実施率 点検調査実施済みとなる施設数(箇所) / 全施設数(箇所)	0%	0%	29%

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-
-----	-----------	---	----------	---	----------	---	------------	---

A 基幹事業

基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
												H28	H29	H30	H31	H32			
一体的に実施することにより期待される効果																			
備考																			
下水道事業	A07-001	下水道	一般	真庭市	直接	-	管渠(雨水)	新設	浸水対策事業(久世勝山処理区)	雨水渠 1,200×1,200 L=5.0km	真庭市						130	-	
	A07-002	下水道	一般	真庭市	直接	-	管渠(雨水)	新設	浸水対策事業(久世勝山処理区)	調査・設計等	真庭市						30	-	
	A07-003	下水道	一般	真庭市	直接	-	改築		長寿命化対策事業(久世勝山処理区他)	ストックマネジメント計画策定	真庭市						53	-	
											小計						213		
											合計						213		

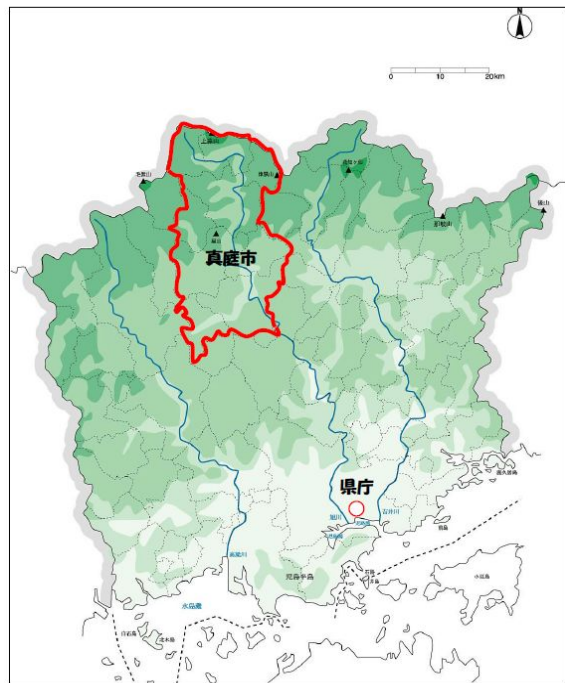
交付金の執行状況

(単位：百万円)

	H28				
配分額 (a)	13				
計画別流用増 減額 (b)	0				
交付額 (c=a+b)	13				
前年度からの繰越額 (d)	0				
支払済額 (e)	8				
翌年度繰越額 (f)	5				
うち未契約繰越額 (g)	0				
不用額 (h = c+d-e-f)	0				
未契約繰越率+不用率 (i = (g+h)/(c+d))%	0				
未契約繰越率+不用率が10%を超えている場合その理由					

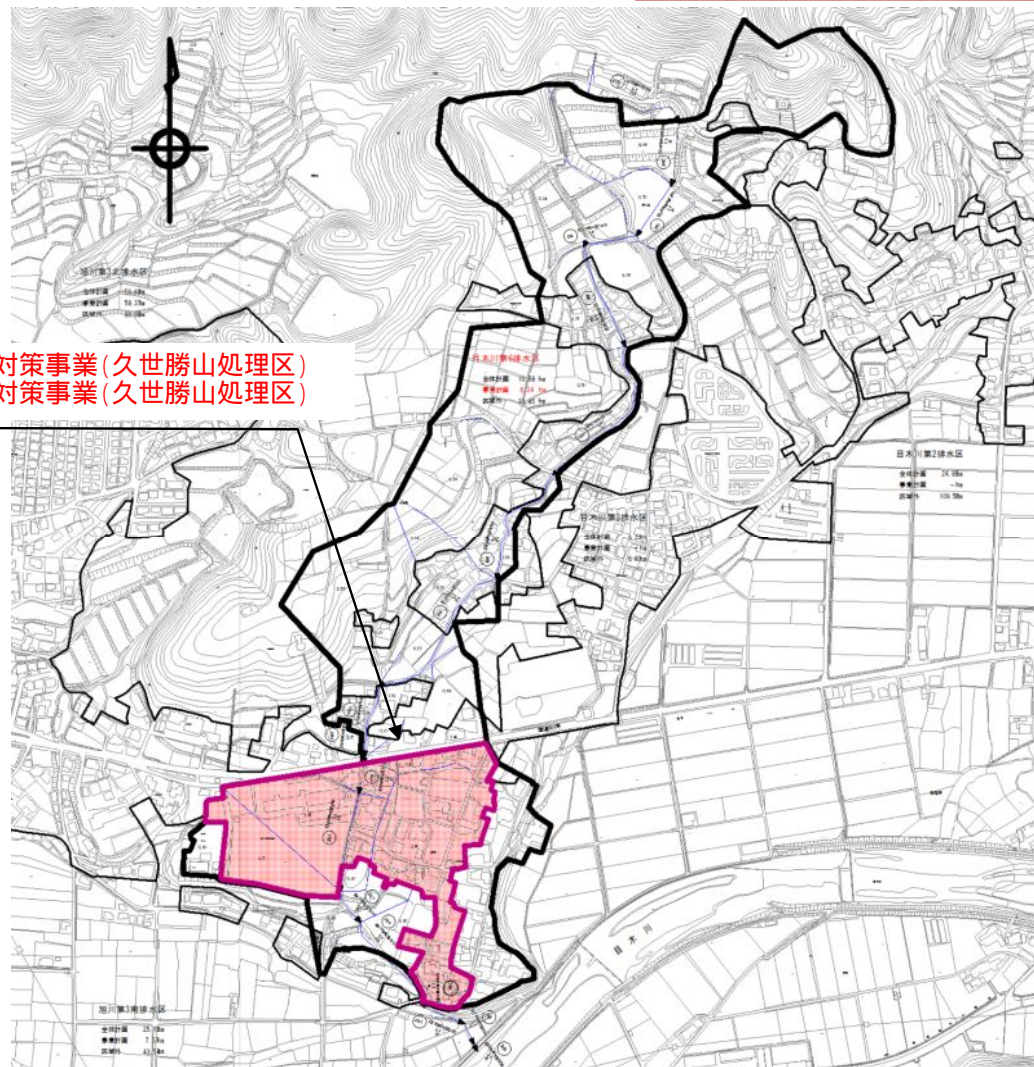
(参考図面) 社会資本総合整備計画 (防災・安全交付金) (第1回変更)

計画の名称	水源の里の清流を未来へ引き継ぐ水環境づくり (防災・安全)		
計画の期間	平成28年度 ~ 平成31年度 (4年間)	交付対象	真庭市

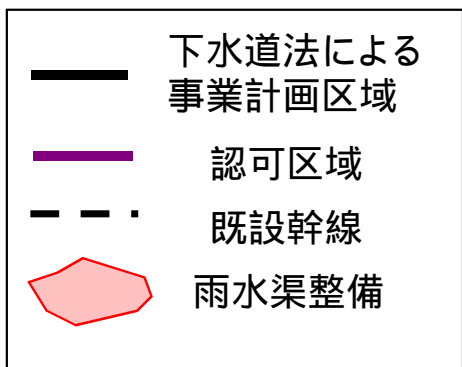


整備については、すべて  
下水道事業計画区域内で行う。

A07-001 浸水対策事業(久世勝山処理区)  
A07-002 浸水対策事業(久世勝山処理区)



A07-003 長寿命化対策事業(久世勝山処理区他): 対象区域 = 全処理区



## 事前評価チェックシート

計画の名称： 水源の里の清流を未来へ引き継ぐ水環境づくり（防災・安全）

事 前 評 価	チェック欄
I. 目標の妥当性 都道府県構想（クリーンライフ100構想）に適合している。	○
I. 目標の妥当性 これまで行ってきた、「下水道事業の整備効果工向上を図るための事業の再点検（4つの点検）」の実施結果を反映している。	○
I. 目標の妥当性 地域の課題を踏まえて下水道整備の目標が設定されている。	○
I. 目標の妥当性 下水道整備の必要性という観点から地区の位置づけが高い	○
II. 計画の効果・効率性 目標の指標・数値目標の整合性が確保されている。	○
II. 計画の効果・効率性 指標・数値目標と事業内容の整合性が確保されている。	○
II. 計画の効果・効率性 目標及び事業内容と下水道事業認可区域との整合性が確保されている。	○
II. 計画の効果・効率性 指標・数値目標が市民にとって分かりやすいものとなっている。	○
II. 計画の効果・効率性 事業効果をより高めるため、ハード事業とソフト事業を効果的に組み合わせる等の工夫がなされている。	○
II. 計画の効果・効率性 十分な事業効果が確認されている。	○
II. 計画の効果・効率性 他の事業との連携等による相乗効果・波及効果が得られるものとなっている。	○
III. 計画の実現可能性 計画の具体性など、事業の熟度が高い。	○
III. 計画の実現可能性 計画および実施に関し、住民等に対する事前説明が行われている。	○
III. 計画の実現可能性 計画および実施に関し、住民との間で合意が形成されている。	○